

中山間地域の地域活性化 ―サークル活動の視点から―

1. 対象地域の概要

今回の対象地域は福島県南会津郡只見町の小さな集落、布沢区だ。布沢区はいわゆる中山間地域であり、周りを山々に囲まれている。また、只見町は国内屈指の豪雪地帯でもあり、冬には建物の2階ほどの高さまで雪が積もる。

只見町は、以前ダム建設の影響などで栄えていたが、早い段階から過疎化、少子高齢化が進んできた、僻地である。中でも布沢区はその傾向が著しく、過疎化により空き家の増加が問題として挙がる。また、集落に住む人々の高齢化により、雪下ろしの問題や、耕作放棄地の増加も問題として挙げられるだろう。

筆者はこのような集落に、サークル活動として関わっている。このレポートでは、サークル活動の視点から集落の活性化、町おこし運動について考えていきたい。

2. サークル活動の概要

2.1. サークル創設の経緯

学生が布沢区と関わるきっかけとなったのは、5年前に行われた福島県の「大学生の力を活用した集落活性化事業」である。それにより、筆者の先輩にあたる方々が、まだサークルではなく、ゼミとして初めて集落に入った。事業は2年間で終了したが、集落との関係を継続したいという思いから、現サークル(D-friends)の形が完成した。

2.2. 今のサークル活動

現在筆者がサークル活動として布沢と関わって2年目が終わろうとしている。サークルの活動は、主に地域との交流がメインである。具体的には、耕作放棄地をお借りして、地域の方々と協力して稲作をしたり、地域の祭りや普請に参加したり、地域の方々のお宅を訪問しお話をさせていただいたりしている。このような活動を通して、集落を盛り上げる、活性化することを目的とする。

また、大学生にとって集落で見るものは珍しいものばかりだ。そうした発見を地域の方々に伝えることで、地域の方々の集落に対する誇りの創出を期待している。

3. 県や町の補助事業

3.1. サークルと行政

サークルの発端も、福島県の行政との関わりからであった。そして現サークルも、行政の理解を得て、補助を頂き活動している。ここでは、サークルが受けている補助の例を挙げていく。

3.2. 県の補助事業

県の補助事業として、今年度福島県から50万円の補助金を頂いた。補助金の目的は、大学生が集落に継続的に入るための経済的負担を軽減することが主だ。宇都宮からの交通費や、現地での宿泊費に充てられる。

加えて、新たな取り組みとして、集落の魅力を伝える広報活動や、集落のおばあちゃんから教えていただいた手芸品の販売など今年度行った。その売り上げを活用して今後も継続して集落を訪問することが狙いだ。

3.3. 町の補助事業

町の補助事業として、現在、空き家を活用した拠点づくりが行われている。集落に存在する空き家を町が買い上げ、空き家を必要とする人に貸し出すという仕組みだ。我々は現在、その空き家を利用する方向で、町の方々、そして集落の方々と話を進めている。

サークルが只見町で活動を続けていく中で、町政に影響を与えることができたということではないだろうか。

4. 地域と行政と大学生のつながり

集落と大学生が継続した関係を築いていくことは難しいことである。集落の人々の中には、我々の活動に賛同し、協力してくださる方もいれば、無関心、また否定的である人もいる。今までの5年間という継続した活動を通して、我々に対する集落の関心は以前よりも高まった。それはお宅訪問などを通して、感じていることだ。

また、大学生のサークル活動として、行政からの補助を受けながら活動することに、ある種の誇りと、責任感が存在する。単なる遊びの活動ではなく、何か実りのある活動にしなければならない。

大学生が、流入人口の増加など、数字としての結果を導くことに直接関わることは難しいかもしれないが、大学生だからこそできることを、集落と関係を継続していく中で探していきたいと考える。